



南海トラフ地震 液状化分布図

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模地震と関連するかどうか調査を開始したときなどに発表されます。

巨大地震警戒

- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において、M8.0以上の地震が発生したと評価したとき

巨大地震注意

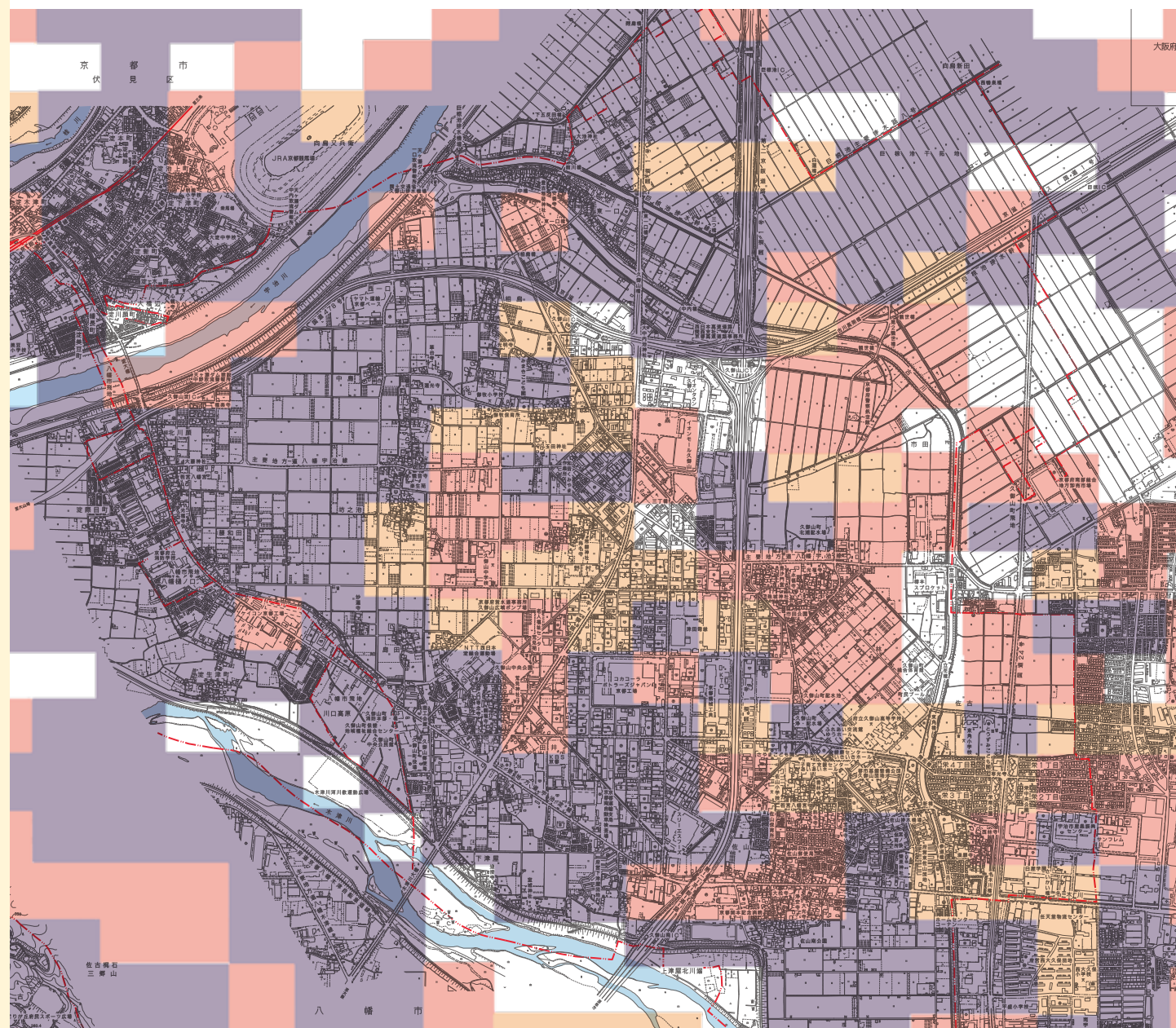
- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において、M7.0以上、M8.0未満の地震が発生したと評価したとき
- 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側50^{キロメートル}程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生したと評価したとき
- ひずみ計などで有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測されたとき

調査終了

- 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価したとき

液状化危険度

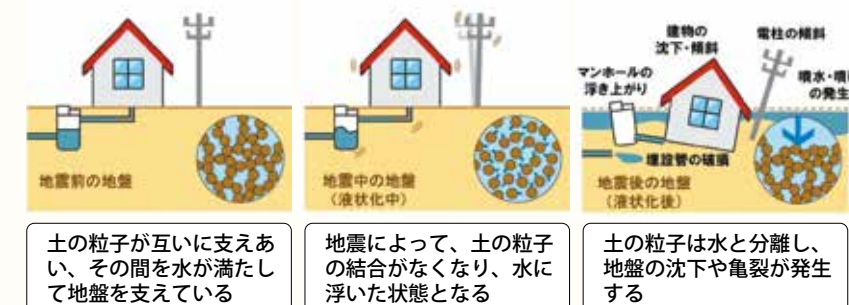
- 危険度が高い
- 危険度がやや高い
- 危険度が低い



生駒断層帯地震 液状化分布図

<液状化現象とは？>

液状化とは、地震が発生して地盤が強い衝撃を受けると、今まで互いに接して支え合っていた土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことです。液状化が発生すると、地盤から急に柔らかくなるため、その上に立っていた建物が沈んだり（傾いたり）、地中に埋まっていたマンホールなどが浮かんできたり、地面全体が低い方へ流れ出す現象が発生します。



液状化危険度

- 危険度が高い
- 危険度がやや高い
- 危険度が低い

